



日曜日の環境整備作業では、5・6年生も参加しました。黙々と働く子がいます。勉強も大事ですが、このように“ひとり前”に働くということも大事にしたいです。

一人になる強さ

スタートラインで何を思うのか

陸上記録会 その2

スタート地点で出番を待つ。そのとき、選手は一人です。友だちも先生も遠くで見守るだけです。隣のレーンにいる他校の選手が速そうに見えるかもしれません。スタートまでには意外に時間があるものです。選手はスタートの練習を始めます。体が冷えないように屈伸も行い



ます。隣の選手と違う動きでも慌てません。スタートするギリギリまで、今まで教えられたことを思い出し、

「今できることは何か」、「まだできることはないか」と考えて実行します。それが、最後の0.1秒を縮めるのでしょ。緊張するかもしれませんが、できることを考えて行うことで緊張もとけるのでしょ。こうして、一人になっても最後までやるべきことをやり切ることで、そして、じっと勝負のときを待つこと。それができるのは“強さ”です。一人になれるのはその人の『強さ』だと思ふのです。



できることは何か

グラウンドの隅で招集ギリギリまで練習

“一人”のうしろには

その場では一人ぼっちの選手ですが、実は一人ではないようです。**バトンを持って走ってくる仲間**がいます。精一杯の走りを信じてじっと待ちます。

トラックの外には**一心に声援をおくる応援団**がいます。応援団は、一緒に練習した人たちです。きっと「自分も選手になりたかった」という人もいるはず。その友だちが今声援を送っています。仲間の声援に押され、仲間の思いも背負って走ります。



互いの顔を見ることもなく“信頼”によってバトンが引き継がれます。



運動会スローガン

「**耀理(しょうり)**」

～みんなで目標に向かってつき進み

かがやけ種小っ子～

月曜日朝会で、全校児童の前で、運動会スローガンが確認されました。これまで、合間をぬって何度も代表委員会を開いて取り組み方を話し合いました。難しい漢字を使っただけのスローガンは、子ども達だけで考えたものだと思います。こうして考えたり提案したりすることが好きな子ども達のようなようです。うれしいことです。

耀:かがやく、光る

理:ものごとの筋道を立て整える

(「**目標**」という意味にとらえる)

運動会は、本当は5月に行く予定でした。できないかもしれないと心配されましたが、いよいよ「できる」というところまでこぎつけました。喜びとともに期待も膨らみます。安全対策を行い、いつもよりも規模縮小で行いますが、運動会は、4月から話してきた「自分達でできること」を増やす大きなチャンスだと思うからです。

特に6年生に期待します。スローガン達成に向かって、赤組・白組をまとめます。先生方に頼らないでどこまでできるでしょう。また、5年生はどこまで6年生と協力して運動会を成功させられるでしょうか。下の学年は、どれだけ教えられたことをよく聞いて、自分でできるようになるでしょう。低・中・高学団と学団での取り組みでも、上の学年と下の学年が教え合います。

子ども達でどこまでできるか、楽しみでなりません。

再度、お願い 運動会の参観について

マラソンの取り組み、陸上記録会と、観戦・参観の制限をお願いしてきて、またのお願いになることが心苦しいです。以前お伝えしたように、安全対策として

- ・種目を減らしての半日開催
- ・参観は、各家庭2名以内でお願いする（未就学のお子さんはこの人数に含まず、連れてくるのは構いません）
- ・来賓は、教育長さんと学校評議員さんのみとする（学校の運営についてご指導・ご協議いただく必要からのご案内のみ）

※ご家族以外の地域の方や、2名を超えてのご家族の方は、参観をお控えくださるようお願いいたします。

子ども達と職員で約260人です。種小のPTA会員数は約180家庭。各家庭から2名参加で360人。子ども、職員、おうちの方と合わせれば、640名になります。各家庭からの人数を1名増やして3名にすると、合計が約820名、4名にすると1000人となります。

このような現状から、PTA役員さんとも相談し、「2名でご理解いただこう」ということにしました。子ども達のがんばりをお伝えすればするほどを多くの方にご覧いただきたい気持ちにもなりづらいところです。たくさんの方に見ていただきたい気持ちを持ちながら、また、申し訳ない気持ちを持ちながら、再度、人数に制限をさせていただくことをお願いいたします。どうかご理解くださるよう、何とぞ、お願いいたします。

